

TRANSMISSION

京都造形芸術大学 比較藝術学研究センター 国際シンポジウム

AND

# 「文化の伝播と変容」

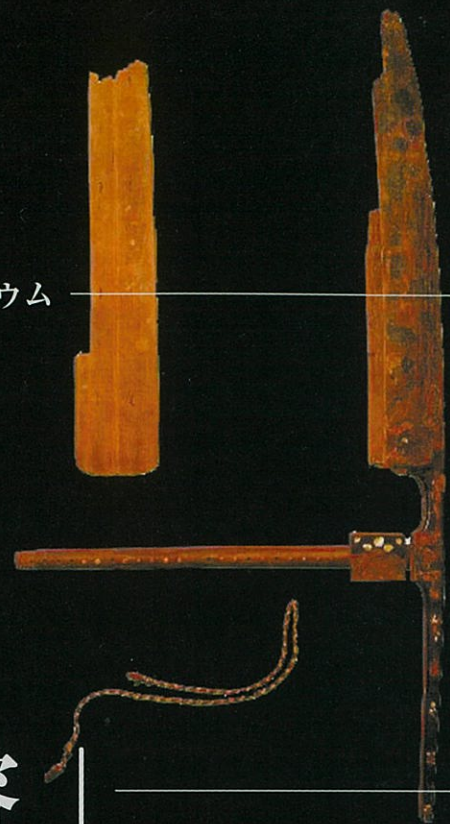
TRANSFORMATION

2005年3月27日(日) 10:00~16:40(開場9:30)

OF

京都造形芸術大学 京都芸術劇場「春秋座」 定員:600名(入場無料/事前申込制)

CULTURE



ルーブル美術館(シェリーウイング)に古代エジプト(新王朝)のハーブがある。世界最古のハーブであり現行ハーブのジェネシスである。直立した響鳴胴と、これに直角に挿入したアームとが作るL字型を跨いで絃を掛けるアングラー(角型)ハーブ。メトロポリタン美術館のこの楽器のコピーは形だけのコピーで楽器として機能するものではなく、即ち楽器としての構造解明は未解決のままであった。私はすでに正倉院の篋篋(アングラーハーブの八世紀極東における形態)を復元しており、その経験を踏まえてルーブルの古代エジプトハーブの復元に取り組んできた。今回、その復元第一号を発表する。古代エジプト、正倉院ともに同属のアングラーハーブであり、絃が引っ張る力で撓ったアームの反作用を利用して絃にテンションを与える仕組みは共通しているが、アームのホゾを響鳴胴のホゾ穴に挿入して、もう一つの小さいパーツと組み合わせるとバネのように弾ませる仕組みはそれぞれに工夫があり、そこが復元のポイントである。復元した古代エジプト、正倉院のアングラーハーブは共通の構造の故に音高や音圧の秩序は共通しながらも、素材に於いて相違している(古代エジプトは皮張り・ガット絃、正倉院は板張り・絹糸絃)このことは音色の違いとなって表れる。この音の情報量の多様さは楽器のジェネシスを考える上できわめて示唆的である。

木戸 敏郎

復元制作・考証 木戸俊郎/木工 鳳仙/皮張 宮本卯之助  
商店/組紐 中條美智子/絃掛 野原耕二・矢野陽一

■古代エジプト アングラーハーブ ルーブル美術館



■日本(奈良時代) 篋篋



京都造形芸術大学 比較藝術学研究センター 国際シンポジウム

# 「文化の伝播と変容」

Transmission and Transformation of Culture

2005年3月27日(日) 10:00~16:40(開場9:30)

京都造形芸術大学 京都芸術劇場「春秋座」

定員:600名(入場無料/事前申込制)

主催:京都造形芸術大学 比較藝術学研究センター

共催:京都文藝復興倶楽部

### ●お申し込み方法

シンポジウムへの参加をご希望の方は、氏名、住所、電話番号、職業をご記入の上、はがき、FAXまたはE-mailでお申し込み下さい。

### ●お申し込み締切:3月22日(火)

[お申し込み・お問い合わせ先]

京都造形芸術大学 比較藝術学研究センター 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116  
TEL/075-791-9132 FAX/075-791-9181 E-mail/irccas-info@kuad.kyoto-art.ac.jp



■JR京都駅・京阪三条駅より  
市バス5系統/岩倉行「上終町京都造形芸大前」下車

■阪急河原町駅より  
市バス5系統/岩倉行「上終町京都造形芸大前」下車  
市バス上終町3系統/百万遍 上終町京都造形芸大行「上終町京都造形芸大前」下車

■京阪出町柳駅より  
市バス上終町3系統/百万遍 上終町京都造形芸大行「上終町京都造形芸大前」下車  
叡山電鉄叡山線「茶山駅」より徒歩約10分

■地下鉄北大路駅より  
市バス204系統循環/「上終町京都造形芸大前」下車  
※駐車場はございませんので、お車・バイクのご来場はご遠慮ください。

京都造形芸術大学 比較藝術学研究センター 国際シンポジウム

# 「文化の伝播と変容」

文化はある特定の地域において生まれ、他の地域との接触、交流を通じて、変貌しながら広まって行く。芸術の場合も例外ではない。このシンポジウムでは、古代壁画と近世文人画の事例を中心に、中国大陸、朝鮮半島、日本列島を結ぶ東アジア文化圏における絵画表現の伝播と変容の過程を振り返り、それぞれの地域の文化的特質を論ずるとともに、文化の多様性のなかでの共生のあり方について考える。

10:00  
|  
10:10

### 開会の挨拶

芳賀 徹「京都造形芸術大学 学長」

### 第1部 ― 基調講演

#### ■基調講演①

「高句麗壁画抽象文様の伝播」  
姜友邦「梨花女子大学 美術史学科招聘教授」

舞台転換

10:50  
|  
10:55

10:10  
|  
10:50

#### ■基調講演②

「伝播の型：中国・韓国・日本の文人画」  
フエリス・フイツシャー「ライプツィヒ美術館 東洋学部長」

昼食休憩

12:15  
|  
13:35

### 第2部 ― パネル討論

#### ■パネル講演①

井上 正「京都造形芸術大学大学院客員教授・飯田市美術博物館長」

#### ■パネル講演②

狩野 博幸「京都国立博物館 文化資料課長」

#### ■パネル討論

※パネル講演終了後、以下のパネリストを交えパネル討論  
姜友邦、フエリス・フイツシャー、芳賀 徹、司会 高階 秀爾

休憩・舞台転換

15:35  
|  
15:45

### 第3部 ― 講演・演奏会

#### ■講演

「古代エジプトハーブと  
筵篋(くし)との比較研究およびその復元」  
木戸 敏郎「京都造形芸術大学 芸術学部 映像・舞台芸術学科 教授」

三輪 眞弘「作曲家 I.A.M.A.S(岐阜県立情報科学芸術大学院大学 教授)」

#### ■演奏会

「蟬の法」(三輪眞弘・作曲)  
摩寿意 英子「ハーブ奏者」 西 陽子「箏曲家」

15:45  
|  
16:15

16:15  
|  
16:35

16:35  
|  
16:40

16:40



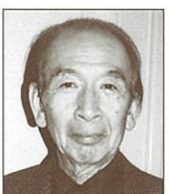
姜友邦(カンユーバン)  
梨花女子大学 美術史学科招聘教授  
1978年ソウル国立中央博物館に着任以来、韓国の芸術、特に仏教美術史について研究。京都国立博物館に滞在中の75年から76年までの1年間、およびハーバード大学滞在中の82年から85年までの3年間、インド、中国、日本の芸術についても広く研究。ソウル国立中央博物館の主任学芸員、国立慶州博物館のディレクターを務め、2000年梨花女子大学特別主任教授に就任。現在同大学美術史学科招聘教授。



Felice Fischer(フエリス・フイツシャー)  
ライプツィヒ美術館 東洋学部長  
ライプツィヒ美術館のコレクションから「西と東の出会い：中国・日本の芸術交流百年史」、「日本仏教美術展」など、これまでに数多くの展覧会を企画、関連出版物を発表。中国、韓国、および日本に関する主要な特別企画展の指揮を取る。の中には、「日本のデザイン：1950年〜現在まで」、「本阿弥光悦展」、「棟方志功展」などがある。現在は、池大雅に関する展覧会の準備を行っている。



高階 秀爾(たかしな しゅうじ)  
京都造形芸術大学 学長  
比較藝術学研究センター 所長  
国立西洋美術館研究員、東京大学教授、フランス、ボンビデュー芸術文化センター客員教授、コレージュ・ドゥ・フランス招聘教授、ハーバード大学招聘研究員などを歴任。1992年、東京大学名誉教授。97年パリ第一大学名誉博士。1992年〜2000年まで国立西洋美術館長。2002年より大原美術館長。2003年より現職。



井上 正(いのうえ ただし)  
京都造形芸術大学 大学院客員教授  
飯田市美術博物館長  
1987年まで京都国立博物館に勤務。1989年より飯田市美術博物館長。1987年より奈良大学、佛教大学、京都造形芸術大学を歴任。「アジアの視野に立つ日本美術史」を研究。



狩野 博幸(かの ひろゆき)  
京都国立博物館 文化資料課長  
京都大学文学部文化交流施設助手、イタリア政府給費留学生、コレッジョ・ギスリエーリ奨学金バウイア大学考古学研究室研究員、ドイツ・マクシミリアン・ネウム財団奨学金「ミンヘン」大学考古学研究室研究員を経て、現職。東京大学博士(文学)。専門は古代ギリシア、ローマ美術史及び考古学。



芳賀 徹(はがみつる)  
京都造形芸術大学 芸術学部 歴史遺産学科 教授  
東京大学文学部文化学交流施設助手、イタリア政府給費留学生、コレッジョ・ギスリエーリ奨学金バウイア大学考古学研究室研究員、ドイツ・マクシミリアン・ネウム財団奨学金「ミンヘン」大学考古学研究室研究員を経て、現職。東京大学博士(文学)。専門は古代ギリシア、ローマ美術史及び考古学。



木戸 敏郎(きと しんろう)  
京都造形芸術大学 芸術学部 映像・舞台芸術学科 教授  
演出家。元国立劇場演出室長。声明の声や雅楽の楽器の音の情報を新しい概念で読み替えて現代音楽の文脈の中で再生する音楽運動や、正倉院などの楽器を復元した始原楽器の音の情報を新しい音楽を創造する音楽運動を展開。その成果を国内内外で発表して評価を受けている。中島健蔵音楽賞、クラウス・ヴァックスマン賞(メリカ)受賞。



三輪 眞弘(みわ まさひろ)  
作曲家  
I.A.M.A.S(岐阜県立情報科学芸術大学院大学) 教授  
ベルリン芸術大学、ロベルト・シューマン音楽大学で作曲を学ぶ。オペラ「新しい時代」、オーケストラ作品「村松ギヤ・エンジン」による「ポレロ」、作品集CD「赤ずきんちゃん伴奏器」、「東の唄」、「昇天する世紀末音楽」シリーズ、「新しい時代信徒歌曲集」、「言葉の影、またはアレキヤ」などを発表し、多岐に渡る活動続ける。



摩寿意 英子(ますい えいこ) ハーブ奏者  
東京芸術大学日本画科卒。同大学音楽学部ハーブ科大学院在籍中にイタリア政府給費留学生として渡伊。ローマの国立サンタ・チエーリア音楽院を最優秀の成績で卒業。帰国後、東京芸術大学大学院修了。国内及びヨーロッパ、ソロや室内楽の分野で活躍。シングルアクトシブや天平時代の復元楽器、筵篋(くし)による演奏も手がけている。CD「恋の鶯」、「月の光」に魅せられて、「アルムラウ」作曲・ハーブのためのソナタ作品8「世界初収録」がある。現在、神戸女学院大学講師、日本ハーブ協会常任理事。



西 陽子(にし ようこ) 箏曲家  
和歌山県出身。東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。沢井忠夫、沢井恵の両氏に師事。新作初演、復元楽器の演奏、国内外のアーティストとの即興演奏、洋楽器やオーケストラとの共演、他分野の邦楽家や美術家、作家、詩人とのコラボレーション、電子音楽との試み、自作自演等ソロ活動は多岐に及び国内はもとよりアジア・欧米の各地で演奏を行っている。これまでに「箏組曲 植物文様」と「ファンタスマ」2枚のソロアルバムをリリースしている。